



自動車じどうしゃを最初さいしょにつくったのはだれ

フランス人じんのキュニョー

1770年ねん、フランス人じんのキュニョーという人ひとが、最初さいしょにエンジンをつけた自動車じどうしゃを作りました。これは、蒸気エンジンをつんで、人間にんげんが操縦そうじゆうして走る自動車じどうしゃで、大砲たいほうをつんで運ぶために作られた三輪車さんりんしゃでした。時速じそく3.5キロメートルで、およそ1キロメートルのきよりを走りました。時速じそく3.5キロメートルという、人間にんげんが歩くスピードよりおそいのですが、これが最初さいしょの自動車じどうしゃでした。

しかし、蒸気エンジンじょうきは、かなりの量りょうのけむりやばいえんを出すので、だんだん自動車じどうしゃには使われなくなり、作られなくなりました。

このころ、電気自動車でんきじどうしゃも活かつやくしました。しかし、じゅう電でんに時間じかんがかかりすぎることや、走れるきよりがとても短いという欠点けってんがあり、やがて、ガソリンエンジンをつんだ自動車じどうしゃに、とってかわられてしまいました。

ガソリンエンジンじだいの時代

ガソリンエンジンの自動車じどうしゃを発明はつめいしたのは、ドイツ人じんのダイムラーとベンツです。二人は、それぞれ別々にガソリンエンジンべつべつを発明はつめいし、1886年ねんに自動車じどうしゃを走らせたのです。その後、ガソリンエンジンは改良かいいりょうされ、性能せいゆうがよくなりました。ガソリンエンジンは、小型こがたで、力ちからも強く、すぐにエンジンがかかり、長いながきよりを走ることができ、スピードもかなり出るとい、すぐれた点てんをもっている、今いまでは世界中せかいじゆうで使われています。

(監修・青木 国夫)

